



## 飛鳥旅行の思い出

天羽 利夫 (前館長, 友の会会員)

友の会会員の皆さん, 長い間お世話になり, ありがとうございます. 34年間 (途中6年間のブランクはありますが) の博物館生活はとて素晴らしいものでした. 会員の皆さんとは文化の森に新館がオープンしてからのお付き合いになりますが, 皆さんと出会えたことをとてもうれしく思います.

友の会の行事でいっしょに活動した光景を今でもはっきり思い出します. なかでも, 初めての県外への一泊研修旅行が忘れられない思い出として残っています. 天候に恵まれたこともあって, 2日間の心地よい飛鳥旅行でした. 飛鳥にあるたくさんの遺跡の数々を案内させてもらいましたが, 遺跡を熱心に見入っている皆さんの眼が輝いていたことが印象的でした. 夜は子供たちに混じて大人もゲームに加わり, 意気投合していました. そんな光景を見ながら, 友の会活動の大切なものを見つけたように思いました.



飛鳥旅行の記念写真 (石舞台古墳で)

友の会活動の魅力は, さまざまな行事に参加して新たな知識を得たり, いろいろなことが体験できることだと思います. 私は, これに一つ付け加えたいと思います. それは, 会員相互が友達になり, 幅広い人間関係をつくる, そんな場であることが友の会のもう一つの大きな魅力だと思っています.

今まで友の会活動に参加している皆さんの様子をうかがっていると, 気恥ずかしいのか, 会員どうしが話しあっている光景をあまり見かけませんでした. 飛鳥旅行で私が目の当たりにしたのは, 会員どうしが打ち解けて仲良しになっている姿でした. そんな光景がどの活動でも見られるようになってほしいものです. 人と出会うことがどんなに大きな財産となるか, 私が博物館に勤めて知ったことです.

最後に, お願いしたいことがあります. 友の会は会員の皆さんが作りあげるものです. 今まで, この会の活動は事務局を務める博物館職員がお膳立てをしてきたと思います. これからは会員の皆さんがもっと積極的に参加して友の会を発展

させてほしいものです. 友の会は専門家の集まりではありません. もっと気軽に参加してはいかがでしょうか.

私はお金が続く限り賛助会員として友の会に参加させていただきつもりです. いろいろな行事に参加して, 今後も皆さんと親交を深めたいものです.

## 吉野川渡し舟調べ歩る記

やまし たけひこ  
山地 武彦(友の会会員)

一昨年3月、博物館行事「池田を歩こう」へ参加した折、川湊と常夜燈の話がうかがった。興味津々、早速気の向くままに、辻、脇、川島、第十等川湊の伝承を追いはじめた時に、渡し舟調査の話聞き、一も二もなく押しかけ参加した。

吉野川渡し舟調査の始まりである。

\*

人のことは人に聞く、ものは現場へ行って見る。早速、助任本町地元の漁師さんの舟溜りへ行く。

そこが、鈴江別宮の渡し場の引渡と呼ばれる木橋の架かっていた所で、セメント造りの橋杭が残っている。これが調査の第一歩である。

\*

天気の良い日は、渡し場の痕跡を捜して川辺を歩く。河川敷の畑で、農作業をしている夫婦に聞くと、そこがドンピシャリ中原渡しの跡で、超ラッキー。

雨の日は、漁業組合の事務所の真中に居座る。寄って来た漁師さんの協力的なことに感激する。あっこの爺は知っとんちゃうか、こっちの爺は知っとろう、風評を頼りに訪ねるが、これが大抵当てはずれ。



鈴江別宮渡 引渡跡の橋脚

それでも懲りずに、また会いに行く。  
噂は次々広がって、あっちこっちから声が掛かる。そして歩いてまた歩く。

\*

そんな折、宮島渡しの船着場を捜しに行った。犬の散歩中の親父さんに出会い「オイサン、この辺の人で」と声を掛けた。

そして、嵩上げた堤防に腰を下し、一時間余りも話を聞いた「判らんかったらまたおいで」と言って、家を教えて貰えた。

判った訳がない。疑問は多々残った。

礼状を書く時、質問も書いた。そして、訪問した。また色々教えて貰えたし、関連する本の紹介も受けた。

ずっと後になって判明したことだが、この方が初代徳島市史編纂室長の浜幸雄先生だった。

もう一人、古くからの知人で、義父が鈴江の渡し船頭さんだった梅本国夫さんがいた。鈴江別宮の渡しと作事渡しの正確な場所を知っており、渡し舟の実体験も話してくれた。

\*

個人だけではない。国土交通省 徳島城博物館、渭北コミュニティセンターの方々からも、情報や資料を頂戴した。感謝する。

振り返って、残念なことが一つある。

歩いて、捜しても、行き着く先は男ばかり。花も色香もなかったことが一寸寂しい。



中原渡しから上流を望む

## 川に住む昆虫たち



とくやま ゆたか  
徳山 豊 (友の会会員)

川の中には、いろいろな生き物が住んでいます。その中には、あまり人に知られていない小さな昆虫たちがいます。きれいな水が流れている川で、川底の石をそっと取り出してみてください。石の表面には、チョロチョロと動くカゲロウやいも虫のようなトビケラがいることでしょう。ほかにもいろいろな昆虫が見られると思います。このような水の中に住む昆虫たちを水生昆虫と呼んでいます。川に住む水生昆虫の大部分は幼虫(子)で、いずれは水から出て成虫(親)になります。中には、一生水の中で生活するものもいます。川に住む水生昆虫の代表的なものが、カゲロウ、トビケラ、そしてカワゲラです。ほかに、トンボ、ヘビトンボ、ユスリカ、ゲンゴロウのなかまなどが住んでいます。

一口に川といっても、流れの速さ、川底の状態(石、砂、泥、落ち葉)、深さ、水温など場所によって違いが見られます。川に住む水生昆虫は、種によって自分の生活に合った場所を選んでいるのです。カゲロウやトビケラの多くは、流れの速い所の石ころの表面に住みますが、トンボの多くは、流れがゆるい所の砂や泥の中に住んでいます。また、川の上流部に住んでいるもの、中流部から下流部に住んでいるものもいます。同じ場所でも、季節によって出現する種や数に違いが見られません。水生昆虫を採集していると、いろいろな不思議にぶつかります。

川に住む水生昆虫は、小さなもので移動能力も弱いため、川底の変化や水質汚濁の影響に敏感です。川底の荒廃こうはいが起きると壊滅かいめつ的な打撃を受けますし、有毒物質が流れ込むと全滅します。また、ほとんどの種が汚濁に弱いため、有機物による汚濁が進むと次第しだいにいなくなり、汚濁に耐えられる

ものだけになります。そこで、水生昆虫を水質や川底の変化を知るための指標(ものさし、パラメータ)として利用できないかという研究がされるようになりました。その結果、採集された水生昆虫の種や数から水質を判定する「生物による水質調査法」ができました。薬品を使う方法に比べるとわかりやすく、自然に親しみ、自然への興味や関心を高める機会にもなるので、環境教育の高まりとともに水生昆虫の観察会が盛んになりました。

川の水のように少しずつ変化するのは、目でとらえることが難しいのですが、水生昆虫を通してとらえることができます。また、水がきれいとか汚れているとかの判断は、人により基準が違うので主観的なものになりますが、水生昆虫の種と数を基準にすればある程度の結果が出てきます。川に住む昆虫の採集という体験的な活動を通して、昆虫がたくさん住んでいる川は、自然が豊かな川で人の心にやすらぎを与えるなど、人間にとっても重要な意味を持つことが理解できると思います。機会があれば、水生昆虫の観察会に参加してみてください。



園瀬川文化の森橋下での観察会



## 博物館紹介 18



## 徳島市天狗久資料館

おおすぎ ようこ  
大杉 洋子（友の会会員）

去る4月14日、去年の7月から整備が進められておりました、徳島市天狗久資料館がオープンの運びとなりました。天狗久は、徳島市国府町和田で天狗屋の看板を掲げ、明治・大正・昭和にわたり活躍した人形師です。今年2月には、天狗久3代が使用した人形製作用具及び製品など1,158点が「阿波人形師（天狗屋）の製作用具及び製品」として国の重要有形民俗文化財に指定されており、館内にはこれらの資料も展示されています。

この資料館の建物は天狗久旧工房です。明治20年代、当時としてはめずらしい本瓦葺2階建て旧伊予街道でも目立つ存在だったそうです。時代劇に出てくるような入口の引戸に天狗のお面が描かれており、中へ入りますと右手には、初代久吉氏と3代目治氏の二人分の仕事場が、使われていたそのままに保存されています。ちなみに2代目要氏は若くして亡くなられたとのことでした。

案内の女性に奥へと通され、昭和16年（1941）大阪毎日新聞社・東京日日新聞社（現毎日新聞）制作の「阿波の木偶」という映画を拝見しました。初代天狗久が最後の木偶、熊谷次郎直実の頭を彫っている様子が描かれていました。

玄関の左側の陳列棚には少し様子の違った頭が



天狗久資料館外観



天狗久の工房

あります。説明を求めますと、木偶が廃れて行くなかで、菊人形やお化けのはりぼての頭を作らざるを得なかったとのことでした。

しかし、このはりぼてを制作する中で、腕も上り時間もでき、彫られた木偶には県指定文化財が多数あります。

宇野千代の「人形師天狗屋久吉」によりますと、初代天狗久は3才の時母に死に別れ、手先が生まれつき器用なこと、絵も好きなこと、人形廻しが好きなこと、近所の人々の勤めもあったことから、16才の時、父に連れられて人形富（川島富五郎）のもとへ10年の年期奉公に入りました。朝5時から夜10時まで、5尺の体でよく仕事をしたとのことでした。

偶然でしょうか、現当主の久治氏がおいでになっているということでお話をして頂きました。初代天狗久譲りのおだやかさを受けついでおられるのか、やさしいお顔で「曾祖父は小刀をもって手前へ手前へと彫っていたと聞いております。私は木偶を全然彫っておりません」と話してくださいました。

## 徳島市天狗久資料館

開館時間	午前9時30分～午後4時
入館料	無料
休館日	月～水曜日（祝日をのぞく） 12月25日～1月5日
所在地	徳島市国府町和田字居内172 TEL 088-643-2231

## スタッフ紹介

もろずみ よしろう  
両角 芳郎（館長）

3月末で定年退職された天羽前館長の後を受けて、4月から館長を務めています。友の会の皆さんには博物館の事業にいろいろ



のご協力いただいておりますが、今後ともよろしくお願いたします。

私は大学卒業後の1969年から17年間、大阪の博物館で学芸員として活動してきましたが、文化の森及び県立博物館の建設、開館後の博物館運営の一端を担うため、1986年に徳島へ引っ越してきました。この間、大阪と徳島で2度も新館建設を経験でき、たいへん幸運だったと思っています。

私の専攻は地質学・古生物学です。卒業研究で紀伊半島四万十帯の白亜系を調査した際にイノセラムス（二枚貝）の化石を採集・研究したことがきっかけで、白亜紀の化石に興味をもつようになりました。途中で数年間、新生代の浮遊性有孔虫ふゆうせいゆうこうちゅうに手を染めたこともありましたが、微化石は博物館での研究には向かないことを痛感し、再び白亜紀の大型化石に戻ることにしました。それ以来、地理的に近い和泉山脈や淡路島、阿讃山地の和泉層群のアンモナイト化石を中心に研究を続けています。徳島では勝浦地域からもアンモナイトが産出するので、これらも合わせて研究していますが、なかなか発表できる形にまとまらないのが悩みの種です。

来年秋には企画展「アンモナイトのすべて」を開催する計画で準備を始めています。ご期待ください。

いそもと ひろのり  
磯本 宏紀（民俗担当学芸員）

4月から新任学芸員として勤務しています。この3月まで大学院生だった私には、いまだ毎日が驚きの連続です。博物



館見学は大好きでしたし、実際に他の博物館で臨時職員として働いたこともありました。でも、どこにでも「そこ流」があるものです。そんなこんなで迷惑じゃないかというくらい、いろんな事を先輩方に聞き回ってます。

そんな私ですが、民俗担当。こちらの方もぼちぼちやっています。ただ学生の頃とは違った責任も少しだけ感じながら、最近では村落景観を研究対象にしています。たとえば、ムラの中につくられた道さくどう、索道さくばみちだったり、あるいはお墓に参るための道だったり。でも、こうした道、最初から支配者によってつくられ整備された道とは違いそのムラ、その使用者の事情によって地元の論理で整備されてきたという面もあわせもちます。そして当たり前だけれど、この道が人と人、家と家を結びつけていたのだから素敵すてきじゃありませんか。と言いつつ、歩くことが好きなだけだったりして...。とにかく、民俗学は「野の学問」といわれました。民衆の歴史や文化を明らかにしてきたわけです。

「地域に根ざした博物館」、よく耳にする言葉です。実際、学芸員として何ができるのか、不安もいっぱいですが、我が道へとそれないようがんばりたいと思います。よろしくお願いたします。

もとむら ただあき  
本村 忠昭 (副館長)

花と新緑に包まれ、小鳥の美声オーケストラつきの文化のオアシス、博物館に勤務することとなりました。



子供の頃から、昆虫や小鳥、化石等に興味を持っていたことから、博物館は関心のある仕事場です。業務事務にも一層力を入れ、かつ職員や会員の皆様の足を引っ張ることのないようチームの和の大切さを肝に銘じてまいりたいと思います。また、当館ならではの貴重な体験及び知識の吸収、並びに有意義な出会いなどを期待して、「毎日、元気に、明るく、楽しく」をモットーにしていこうと思います。

うえの あきとし  
上野 秋利 (普及係長)

那賀川上流の青がき垣の里に生まれた私は小さい頃から「あの山の向こうの世界」を確かめたいと思い、これまで多くの旅をしてきました。



この4月からは新天地の博物館の旅(仕事)をしています。とても楽しみです。普及係の仕事だったので、先日も京都や奈良の博物館を訪ね、奥深い文化を堪能しつつ、博物館の世界を垣間見てきました。

博物館で働く人たちやこの文章を読んでくださっている方々との出会いを大事にし、また、教科書では得られない知識を自分のものにしていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

## 友の会行事報告



### こどもの日フェスティバル ～文化の森ウォークラリー～

場 所：文化の森総合公園

日 時：5月5日(土) 9:30～16:00

参加者：1,195名

好天に恵まれた今年度のこどもの日フェスティバルでは、昨年に引き続き、文化の森ウォークラリーを行いました。朝から夕方まで、大勢の参加者が文化の森をエリアとした全長約3キロのコースを歩いてクイズに挑戦しました。

また、この機会に友の会の活動について知っていただき、さらに会員の輪を広げようと、一昨年に行っている園瀬川探検の様子を紹介するパネル展示も行いました。園瀬川沿いに歩いて観察した植物や、路傍の石造物、寺社など、これまでに見てきたものを写真や地図で披露しました。

9時30分の受付開始時間には子供たち数十人が列を作り、受付でウォークラリー用の地図や鉛筆などを受け取ると、10のチェックポイントを目指して駆け足で飛び出して行きました。館外のコースでは「相生町の花は」「鳴門海峡で操業した船は」などの問題を、付き添いの家族と楽しそうに答えていました。

また、博物館常設展示室内のチェックポイントでは、園瀬川探検のパネル展示や、部門展示(人



こどものとりでのチェックポイントで



「おまけになった動物たち」を前にして

文)で開催中の「おまけになった動物たち」についての出題とにらめっこしていました。特に人気があったのは、恐竜のコーナーでした。この問題は、「葉っぱで恐竜を作ってみよう」でした。参加者が思い思いに恐竜の形を作り、作品が次々とできあがりました。用意していた葉が足りなくなるほどで、うれしい悲鳴をあげました。

友の会役員の方には、前々日から園瀬川探検のパネルを展示していただいたり、当日の受付や参加賞の配布、友の会のPRにと大忙しの1日でした。また、役員以外の方からの嬉しいお手伝いの参加もありました。

役員をはじめとする友の会会員と博物館職員が協力して行ったこの行事、昨年を上回る参加者があり、有意義なものになったと思います。

なお、翌日には地元の新聞に「ゴール後は正解いっき いちゆうに応じて賞品を一喜一憂しながら受け取っていた・・・」と大きく取り上げられていました。



木の葉を使って恐竜を作る

## 平成14年度総会の報告

4月21日午後2時より、博物館3階講座室において、友の会総会が開催されました。

18名の参加をいただき、13年度の事業および決算報告・監査報告、14年度の事業および予算案についての審議が行われ、承認されました。

平成14年度友の会事業計画

- (1) 役員会、総会の開催
- (2) 友の会行事の実施
- (3) 会報『アワーミュージアム』の発行
- (4) 博物館発行の展示解説、図録などの増刷、販売
- (5) 博物館催し物等の案内：博物館ニュースのほか、毎月の催し物案内、企画展チラシなどの送付
- (6) その他：常設展無料観覧、ミュージアムショップの利用割引、図録の購入割引
- (7) オリジナルグッズの開発（新規）：現在販売している絵はがきの再検討と改訂
- (8) 企画展の無料観覧の検討（新規）：今年度第2・3回企画展の会員による観覧を無料化するとともに、今後の企画展観覧無料化を検討する。
- (9) 博物館行事におけるボランティア（新規）：博物館行事の一部へのボランティアの導入に伴い、会員から希望者を募集する。
- (10) 会員証の小型化（新規）：携帯の利便性を高める。

平成14年度友の会の行事（予定）

- ・こどもの日フェスティバル【文化の森一帯】  
5月5日（土）
- ・気になる木さがし【博物館実習室】  
5月19日（日）
- ・第7回園瀬川探検【佐那河内村】  
6月16日（日）

- ・自然がいっぱい 小豆島ツアー

【香川県小豆島】 9月8日(日)

平成13年度決算及び14年度予算

- ・第8回園瀬川探検【佐那河内村】

9月下旬

- ・初冬の吉備路 癒しの旅

【岡山県総社市～高梁市】

11月30日(土)～12月1日(日)

- ・第9回園瀬川探検【佐那河内村】

12月上旬

- ・古美術品の調べ方【博物館講座室】

1月下旬

- ・七輪で鍛冶屋さん【博物館実習室】

3月上旬

- ・企画展, 特別陳列説明会

『貝化石が語る海の記憶』説明会

4月21日(日)

『丹波マンガン鉱山の記録』説明会

7月6日(土)

『海道をゆく』説明会 7月下旬

『古代のわざ』説明会 10月14日(月)

\* 行事についての詳しい案内は, 随時お送りします。ふるってご参加下さい。

平成14年度友の会役員

会長: 寺戸恒夫

副会長: 両角芳郎(博物館長)・和田賢次・

関真由子

幹事: 石原侑・徳山豊・多田精介・榎原剛一・

南部洋子・木下覚・澤祥二郎・

大杉洋子

監査: 森本康滋・川下浩子

収入

項目	13年度予算	13年度決算	14年度予算
前年度繰越金	3,149	3,149	12,164
会費	510,000	493,500	510,000
図録売上	642,500	990,180	785,600
行事参加負担金	259,000	279,500	320,000
雑収入	5,000	6,040	5,000
事務局整備積立基金	341,000	0	400,000
合計	1,760,649	1,772,369	2,032,764

支出

項目	13年度予算	13年度決算	14年度予算
図録印刷費等	470,000	724,520	860,000
館利用促進費	50,000	50,849	85,000
行事費	610,000	484,136	520,000
通信費	500,000	367,040	440,000
事務局費	60,649	25,495	49,764
報償費	30,000	0	10,000
保険料			20,000
総合案内積立金	40,000	58,280	48,000
次年度繰越金		12,164	
合計	1,760,649	1,722,484	2,032,764

《事務局からのお知らせ》

14年度友の会会員

6月1日現在の会員数は家族会員78組259名, 個人会員97名, 賛助会員1名計357名です。各行事に積極的に参加して, 会員の輪をより大きく確かなものにしていきましょう。

友の会事務局メンバーが一部変わりました

今年度は本村忠昭(事務局長), 米益麻夫, 上野秋利, 坂本和裕, 長谷川賢二, 茨木靖となりました。みなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

会員の輪を広げましょう

総会の報告にもありますが, 今年度は新しい事業への取り組みも始めます。お友だち等にも声をかけていただき, 会員の輪がますます広がりますようご協力をよろしくお願いいたします。

No.19

第19号

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム



June  
2002  
Tokushima  
Prefectural  
Museum

2002年6月10日 発行: 徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向香山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197